

調査報告書

- 1 とき：2014年2月1日
- 2 行先：豊橋市 穂の国とよはし芸術劇場「LRT都市サミット豊橋2013」
- 3 参加者：山口清明、さはしあこ、政務活動補助員（浜田）
- 4 主な内容
 - ・ LRTとは、Light Rail Transitの略で、低床車両の導入、軌道・電停の改良により、速くて時間に正確、乗り降りが簡単などの特徴がある快適な次世代型路面電車システムのこと。人や環境にやさしい公共交通として、今注目されています。
 - ・ このLRT都市サミットは、路面電車のLRT化に取り組む都市の市長が一堂に会し議論を深め、全国にその活動と成果を発信するとともに、一層の都市間の連携推進とLRTの充実強化を図ることを目的に開催されるものです。平成21年度にはじめて広島市で開催され、これまで3回開催されています。
 - ・ 4回目となる今年は愛知県豊橋市を会場として、「市民と地域で育むLRTをめざして」をテーマに、
 - ① 人・地域・環境をつなぐLRTの良さを全国に発信する
 - ② 都市間連携を推進する
 - ③ 地域の特徴を活かしたLRTに育てるための方策を議論する
 - ④ 豊橋市の様々な魅力を全国へPRする。等を行うことを目的として開催されました。

〈国土交通省の担当官3人からの事例や制度説明〉

- ① 国による支援制度(社会資本整備総合交付金・地域公共交通確保維持改善事業)・交通政策基本法・地域公共交通の現況と検討・公共交通活性化の支援制度
- ② 高齢化社会と財政・歩くことの健康
- ③ LRT・地域鉄道の現状と課題・支援スキー

〈基調講演「地域の活性化とLRTの役割」元JR東海社長須田寛氏〉

- ・ LRT導入成功のカギは良好な走行環境の確保、軌道に車を入れないで定時走行を確保すること、つまり、まちづくりと一体で考えることが不可欠だと指摘。
- ・ 鉄道の工事は多くの場合公的援助が前提となっている。
- ・ まちづくりとセットで総合的な交通システムを構築する必要がある。交通機関

同士の競争から連携・総合へ。都市のゾーン運賃制の必要性。

・走行環境の良い路面電車(渋滞しない道路と、利用しやすいまちづくり)は黒字になる。

- * 制度紹介になりがちな話の中で街路交通施設課長の清水さんは、歩くのが楽しくなるまちづくりとLRTの役割と題して、医療費増加をくいとめるのは歩くこと！という視点からLRTの役割を語っていたのが印象的でした。
- * 基調講演は説得力がありました。名古屋市の将来構想まちづくりのなかに公共交通をどう描くか、LRTをどう位置づけるか、たいへん示唆に富む講演だったと思います。
- * 名古屋市もLRTの導入が、広い道路を車優先で使うだけでいいのか？といった視点で見直す今後のまちづくりの検討課題の一つにあげられています。



す。環境にやさしくバリアフリーな交通機関として参考になりました。

LRTに乗車しました。乗降が楽で揺れが少なく車内もゆったり。帰路は普通の路面電車にしてみました。同じ道なのにつり革につかまっていなくて危ないくらい揺れました。